

通信・IT ネットワークの分野では、日々新しい技術が開発され、より効率的で、より安価なサービスが次々と生み出されています。知らないことは、イコール企業利益の損失です。そこで私たち大和電設工業は、情報通信やITソリューションの『知って得する最新情報』を、お世話になっている皆様に定期的にお伝えしていきます。隔月発刊のDDK通信、ぜひお楽しみください。

クラウド型統合管理サービスの活用

複数の拠点のネットワークを管理しなければならない企業にとって、ネットワークに詳しい技術者を雇用したり育成するには、人手不足の時代には難しく、重要な課題になってきていると思います。以前からネットワークの監視を行うソフトウェアは存在しましたが、専門的な知識を必要とし、しかも高額で、一般的には手が出せないことが実情でした。

最近は様々なクラウド型サービスの提供がありますが、ネットワーク管理についても提供が増えてきました。中小企業では拠点ネットワークの監視を一人の担当者が担うケースが多いため、クラウド型サービスでは、専門技術者でなくても管理ができ、しかも安価であることが求められています。今回は、この点を踏まえて考えてみたいと思います。

ネットワーク機器の運用管理には何が必要か

障害発生時の通知

障害の発生を直ちに知らせる機能があれば、早期対応が可能となります。メールで通知する機能があれば、外出先で通知を受ける事ができます。

通信状況の確認

通信障害が発生している場合、どこで通信が止まっているかを迅速に把握する必要がありますが、クラウド型管理サービスだと外出先からでもネットワークの状況が把握可能です。

装置故障時の自動設定

拠点の装置が故障した場合、現地スタッフが故障した装置を新しい装置に入れ替えた後に、その装置に自動的に設定情報を投入することができれば故障対応もスムーズになります。

イメージで情報伝達

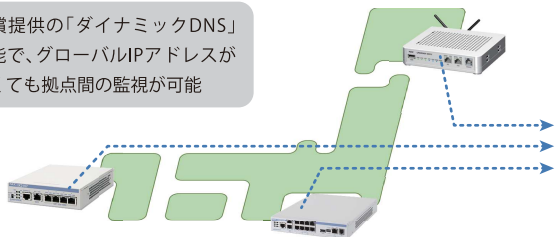
専門技術者でなくても容易に状況が掴めるように、画像やグラフなどイメージでの情報提供であれば、障害が発生しても速やかな対策が可能です。

最近のクラウド型ネットワーク管理サービス事例

ネットワーク管理サービスは高額で専門知識が必要となる場合が多いですが、クラウド型ネットワーク管理サービスでは、比較的安価で専門技術者以外でも見やすい画面で管理が可能です。クラウド型サービスの一例として、NECのルータで無償提供され

ているクラウド型ネットワーク管理サービス「Net Meister」(ネットマイスター)をご紹介します。ネットワークを遠隔で監視でき、故障対応などに必要な機能が備わっており、専門技術者でなくてもネットワークを効率的に監視することができるサービスです。

無償提供の「ダイナミックDNS」機能で、グローバルIPアドレスがなくても拠点間の監視が可能



ブラウザでアクセス



これは便利！



自動で設定情報をダウンロード



装置はケーブルを繋ぎ電源をONするだけ。あとはLEDの正常動作を監視するだけ。

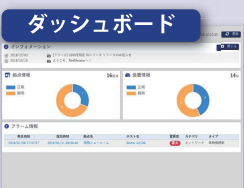
詳細はホームページで！

ネットマイスター

検索

多彩な管理画面で体系的な管理を実現

クラウド上で状況確認ができるので、管理者負担を大幅に削減します。



ネットワークの状況を一目で確認することができます。アラームが発生していたら、的確に状況把握が可能です。



各拠点の状況を個別に掴むことができます。視覚的に捉えることができるので各拠点の問題点も見つけやすくなっています。



拠点の装置の状況確認や、装置の再起動や設定投入などの操作も可能です。各ポートごとの通信量を監視するなど多彩な機能があります。